



2025年12月期
第1四半期
決算説明資料



2025年5月23日
株式会社やまびこ



INDEX

1. 2025年12月期 第1四半期 決算概要	3	APPENDIX	21
2025年12月期 第1四半期 経営成績	4	会社概要	22
2025年12月期 第1四半期 販売状況	5	やまびこの歩み	23
連結売上高および連結営業利益の増減	6	業績推移と売上構成	24
四半期別業績推移	7	事業セグメント：小型屋外作業機械（OPE）	25
セグメント別経営成績	8	事業セグメント：農業用管理機械	26
売上高実績（セグメント・地域別）	9	事業セグメント：一般産業用機械	27
2. 2025年12月期 業績予想	10	国内生産体制	28
2025年12月期 通期予想	11	海外生産体制	29
（補足資料）米国関税政策の影響	12	販売体制	30
連結売上高のセグメント別増減予想（円換算ベース）	13	主要販売子会社：やまびこジャパン株式会社	31
連結営業利益の増減予想	14	主要販売子会社：エコー・インコーポレイテッド	32
売上高目標（セグメント・地域別）	15	主要販売子会社：やまびこヨーロッパ・エス・エイ	33
設備投資・研究開発費・減価償却費	16	主な販売経路	34
株主還元政策	17	国内・海外のユーザー	35
トピックス①	18		
トピックス②	19		
やまびこの存在意義	20		

1

2025年12月期 第1四半期 決算概要

2025年12月期 第1四半期 経営成績

- 売上高は、主力の海外OPE※が北米市場ならびに欧州市場で好調に推移し、前年同期比で増収。
- 損益面は、国内給与の上昇による総人件費等の増加や、北米でのマーケティング活動の前倒しなどにより販管費が増加し、営業利益は減益。また、経常利益は、前年同期増益に寄与した為替差益が今期はUSドルが円高基調で推移したことから為替差損に転じ減益となり、それに伴い最終利益も減益。

売上高

43,785 百万円
(前年同期比 +7.3%)

営業利益

5,575 百万円
(前年同期比 ▲8.9%)

親会社株主に帰属する 当期純利益

3,063 百万円
(前年同期比 ▲44.7%)

(百万円)	24/12期 1Q 実績		25/12期 1Q 実績		
		構成比 (%)		構成比 (%)	前年同期比 (%)
売上高	40,805	100.0	43,785	100.0	+ 7.3
売上原価	26,312	64.5	28,738	65.6	+ 9.2
販管費	8,373	20.5	9,471	21.6	+ 13.1
営業利益	6,119	15.0	5,575	12.7	▲ 8.9
経常利益	6,792	16.6	4,946	11.3	▲ 27.2
親会社株主に帰属する 四半期純利益	5,535	13.6	3,063	7.0	▲ 44.7

■ 為替レート

1ドル	147 円	154 円	+ 4.7
1ユーロ	161 円	160 円	▲ 0.9

※ 「OPE」 = Outdoor Power Equipment

2025年12月期 第1四半期 販売状況

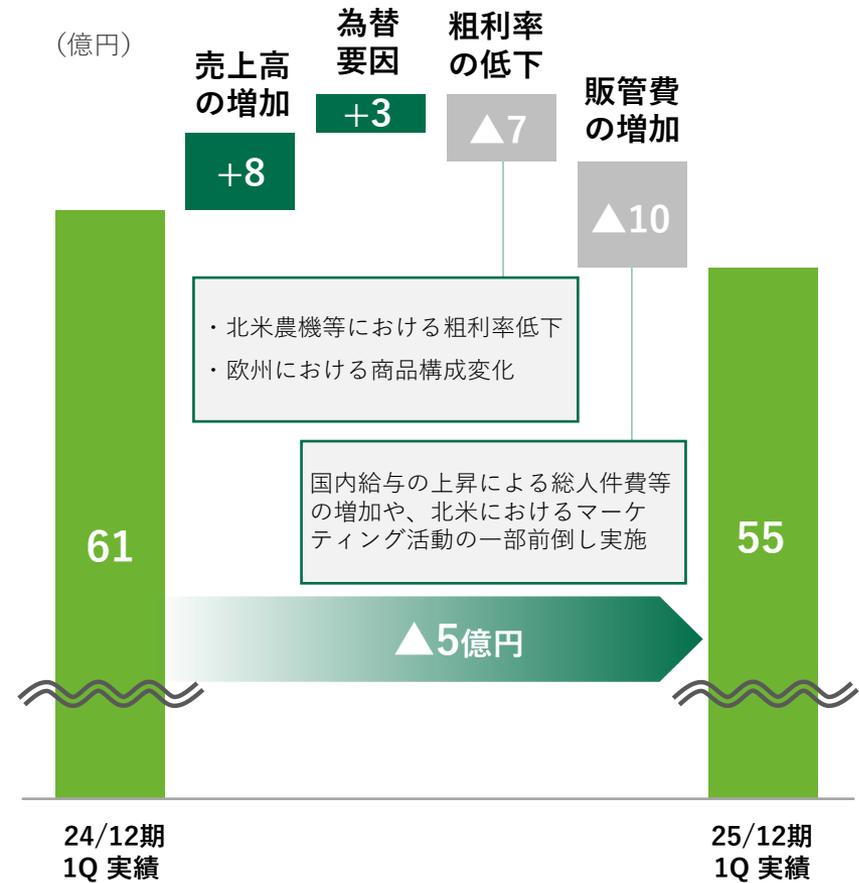
(百万円)		24/12期 1Q 売上高	25/12期 1Q 売上高	前年同期比(%)	概要	(ご参考) 前年同期比(%) ※為替影響除く	
小型屋外 作業機械 (OPE)	国内	3,303	3,408	+ 3.2	米価の上昇を背景とした農家の購買意欲の高まりにより、チェーンソーや刈払機の販売が堅調に推移し増収。	+ 3.2	
	海外	北米	23,610	24,541	+ 3.9	春先の需要期に向けて代理店やホームセンター向けの販売が好調に推移し増収。	+ 1.3
		欧州	2,603	3,991	+ 53.3	新型ロボット芝刈機の販売伸長や、昨年に進んだ代理店の在庫調整を背景に販売が回復したことにより増収。	+ 54.1
一般産業用 機械	国内	2,715	2,340	▲ 13.8	主力の発電機を中心に販売が伸び悩み減収。	▲ 13.8	
	海外	1,194	1,299	+ 8.9	米国で開催されたレンタル業界向け大型展示会での販売が好調に推移したことなどにより増収。	+ 5.9	
農業用 管理機械	国内	3,954	4,088	+ 3.4	堅調な需要環境を背景に、草刈関連製品を中心に販売が好調に推移したことで増収。	+ 3.4	
	海外	1,670	1,504	▲ 9.9	穀物価格の低迷や生産コストの上昇を背景に、農家が設備投資に慎重になっていることから減収。	▲ 12.3	

連結売上高および連結営業利益の増減

売上高



営業利益



四半期別業績推移



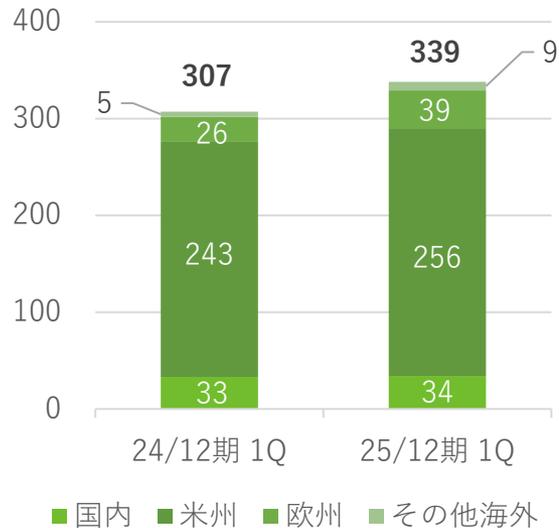
セグメント別経営成績

(百万円)	24/12期 1Q 実績		25/12期 1Q 実績		
		構成比 (%)		構成比 (%)	前年同期比 (%)
売上高	40,805	100.0	43,785	100.0	+ 7.3
小型屋外作業機械	30,742	75.3	33,910	77.4	+ 10.3
一般産業用機械	3,910	9.6	3,640	8.3	▲ 6.9
農業用管理機械	5,625	13.8	5,593	12.8	▲ 0.6
その他	527	1.3	641	1.5	+ 21.6
営業利益	6,119	-	5,575	-	▲ 8.9
小型屋外作業機械	8,119	132.7	8,059	144.5	▲ 0.7
一般産業用機械	361	5.9	284	5.1	▲ 21.1
農業用管理機械	190	3.1	▲ 210	▲ 3.8	-
その他	86	1.4	187	3.4	+ 117.7
全社共通費	▲ 2,637	-	▲ 2,745	-	-

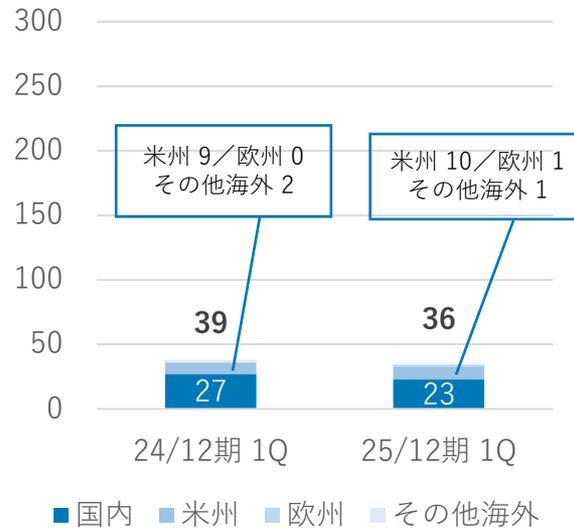
売上高実績（セグメント・地域別）

（単位：億円）

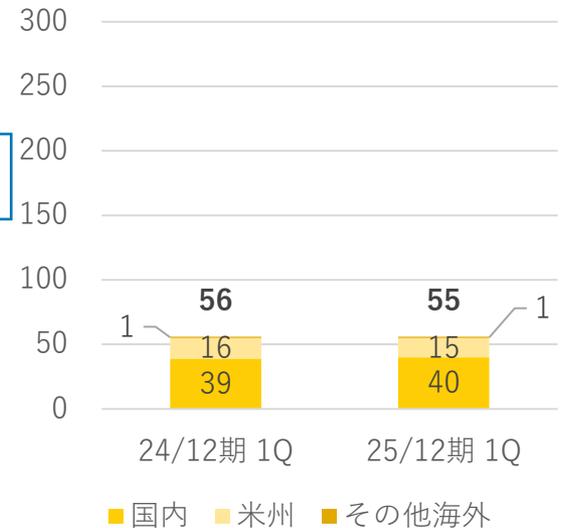
小型屋外作業機械（OPE）



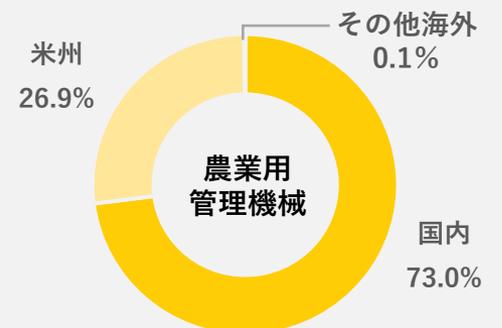
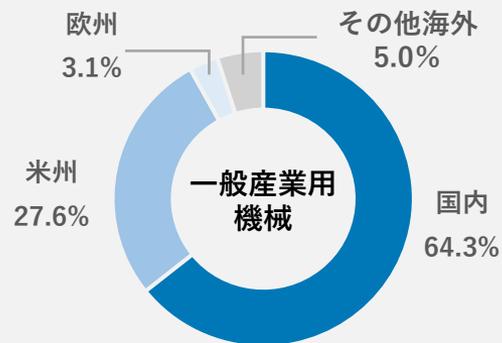
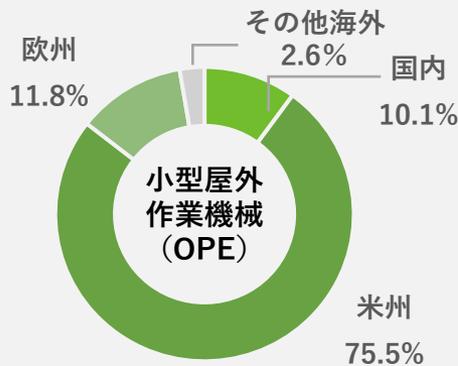
一般産業用機械



農業用管理機械



地域別比率（2025年12月期第1四半期）



2

2025年12月期 業績予想

2025年12月期 通期予想

- 足元の為替水準を踏まえ、第2四半期以降の想定レートを1USドル：140円（前回150円）、1ユーロ：160円（同155円）に見直し、前回公表時から以下のとおり業績予想を修正。
- 為替の影響を除く売上高は期初計画通りを見込むものの、為替レートの変更を織り込み減収とする。また、営業利益、経常利益、最終利益についても前回予想から減益の見通し。

(百万円)	24/12期 実績		25/12期 予想			25/12期
		構成比 (%)		構成比 (%)	前年比 (%)	前回予想(2/13発表)
売上高	164,838	100.0	167,000	100.0	+ 1.3	172,000
売上原価	108,186	65.6	111,000	66.5	+ 2.6	114,000
販管費	37,014	22.5	37,500	22.5	+ 1.3	39,000
営業利益	19,637	11.9	18,500	11.1	▲ 5.8	19,000
経常利益	20,899	12.7	17,000	10.2	▲ 18.7	18,000
親会社株主に帰属する当期純利益	15,889	9.6	12,500	7.5	▲ 21.3	13,500

為替レート	24/12期 実績	25/12期 2Q-4Q予想	25/12期 通期予想 ※
1ドル	151 円	140 円	143 円
1ユーロ	164 円	160 円	160 円

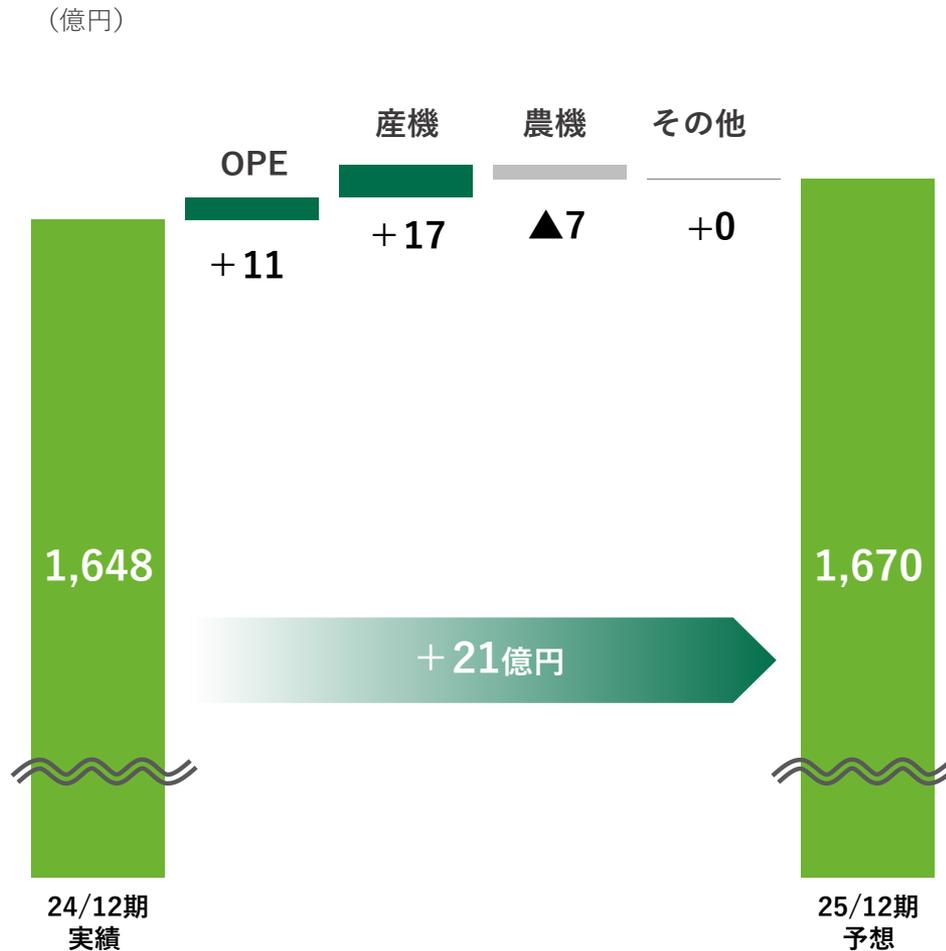
※2Q以降を1ドル:140円 1ユーロ:160円と想定した場合の通期予想レート

2025年2Q-4Qの為替影響額 (1円変動 円安: + 円高: -)	売上高	営業利益
USD	±5.4億円	±0.9億円
EUR	±0.8億円	±0.6億円

(補足資料) 米国関税政策の影響

- 2025年度業績予想は、計画策定時点における米国関税率が年内継続する前提で影響を試算
- 当社は米国販売製品の大半を現地子会社で生産しているものの、サプライチェーンは日本を含む複数国にまたがっており、一定の影響を受ける
- ただし、以下の対応策により、影響を限定的に留める計画
 - ✓ 米国生産拠点の機能を最大限に活用
 - ✓ 米国への生産移管計画を加速
 - ✓ 全社を挙げた更なる原価低減の推進
 - ✓ パートナー企業との連携によるサプライチェーンの最適化

連結売上高のセグメント別増減予想（円換算ベース）



小型屋外作業機械(OPE)

持続的成長を続ける北米市場において、特にホームセンター向けを中心に順調に推移するほか、欧州では代理店在庫の調整を背景に売上増加を見込む。

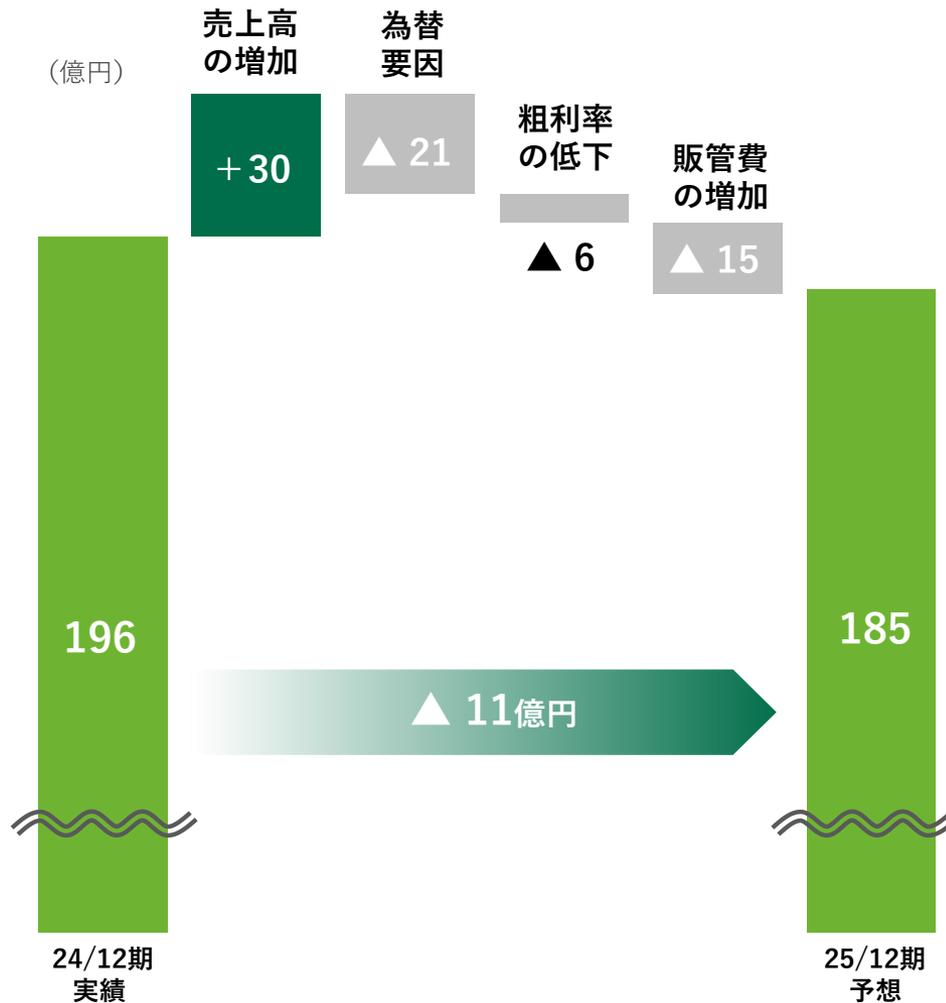
一般産業用機械(産機)

国内・海外ともに安定したインフラ需要が続く見通し。海外は北米市場において大型発電機の現地生産を開始し、大手顧客獲得に向けた販売活動を推進する。

農業用管理機械(農機)

国内は農家の購買意欲の回復により前年並みを見込む。一方、海外は北米における穀物価格の下落等により、農家の設備投資意欲が低下しており、減収の見通し。

連結営業利益の増減予想



売上高要因

為替の影響を除いた実質売上高の増加による利益増。

為替要因

前期対比での円高想定による利益の減少。

粗利率

生産効率改善に努めるものの、部材費コストや製造人件費水準の上昇等による原価率上昇に加え、北米農機等の売上減少に伴い粗利率が低下。

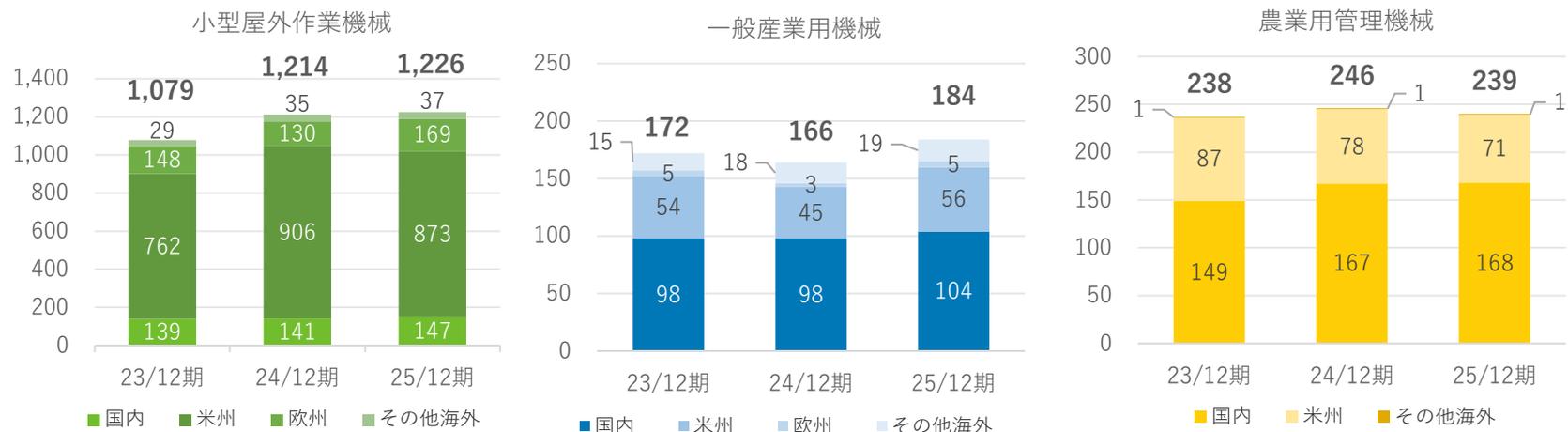
販売管理費

人件費水準の上昇や開発・マーケティング費用、IT分野への投資拡大に伴う販管費（業務委託費・償却費）の増加。

売上高目標（セグメント・地域別）



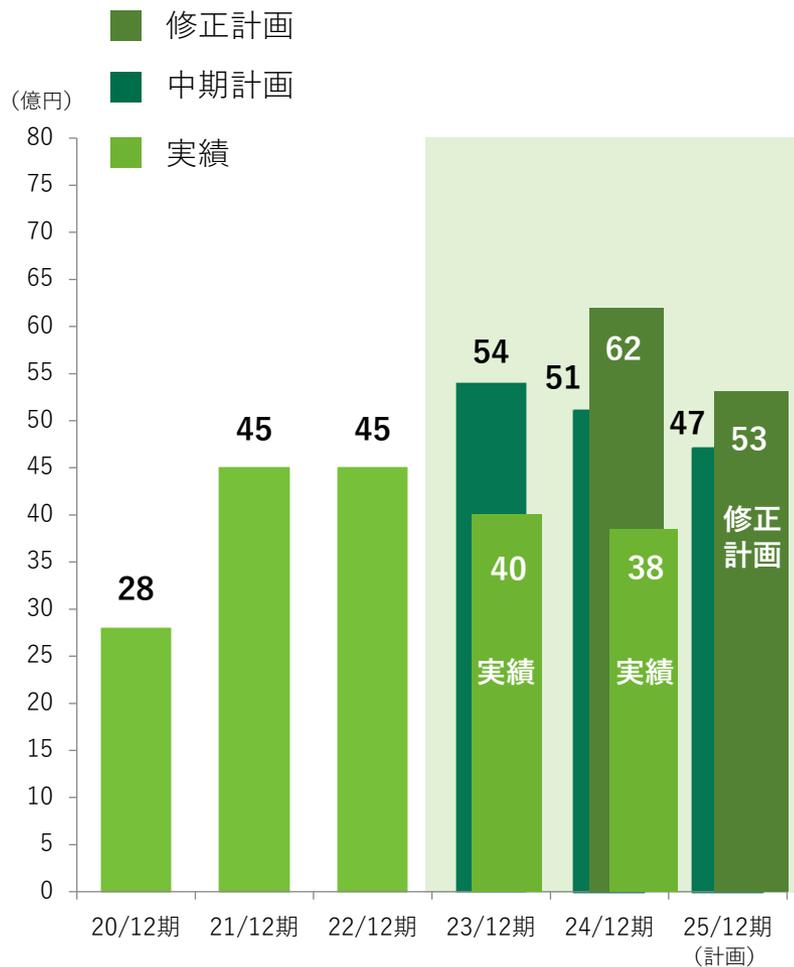
セグメント・地域別売上高



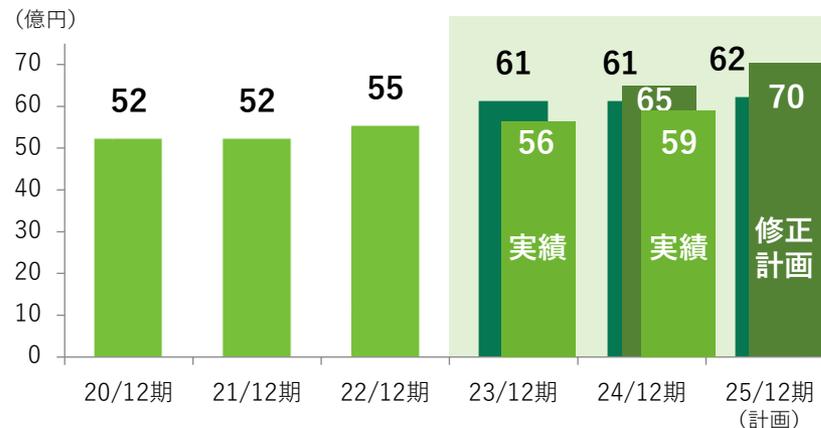
※主要セグメントに含まれない「その他」の売上が、23/12期 22億円、24/12期 20億円、25/12期 21億円 あります。

設備投資・研究開発費・減価償却費

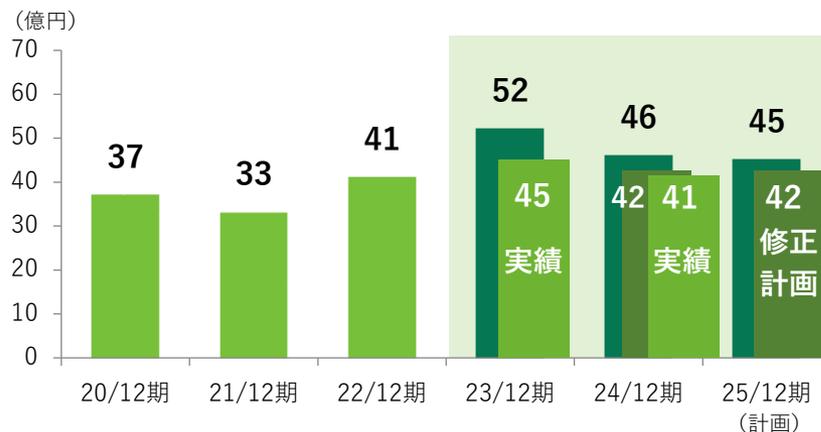
設備投資



研究開発費



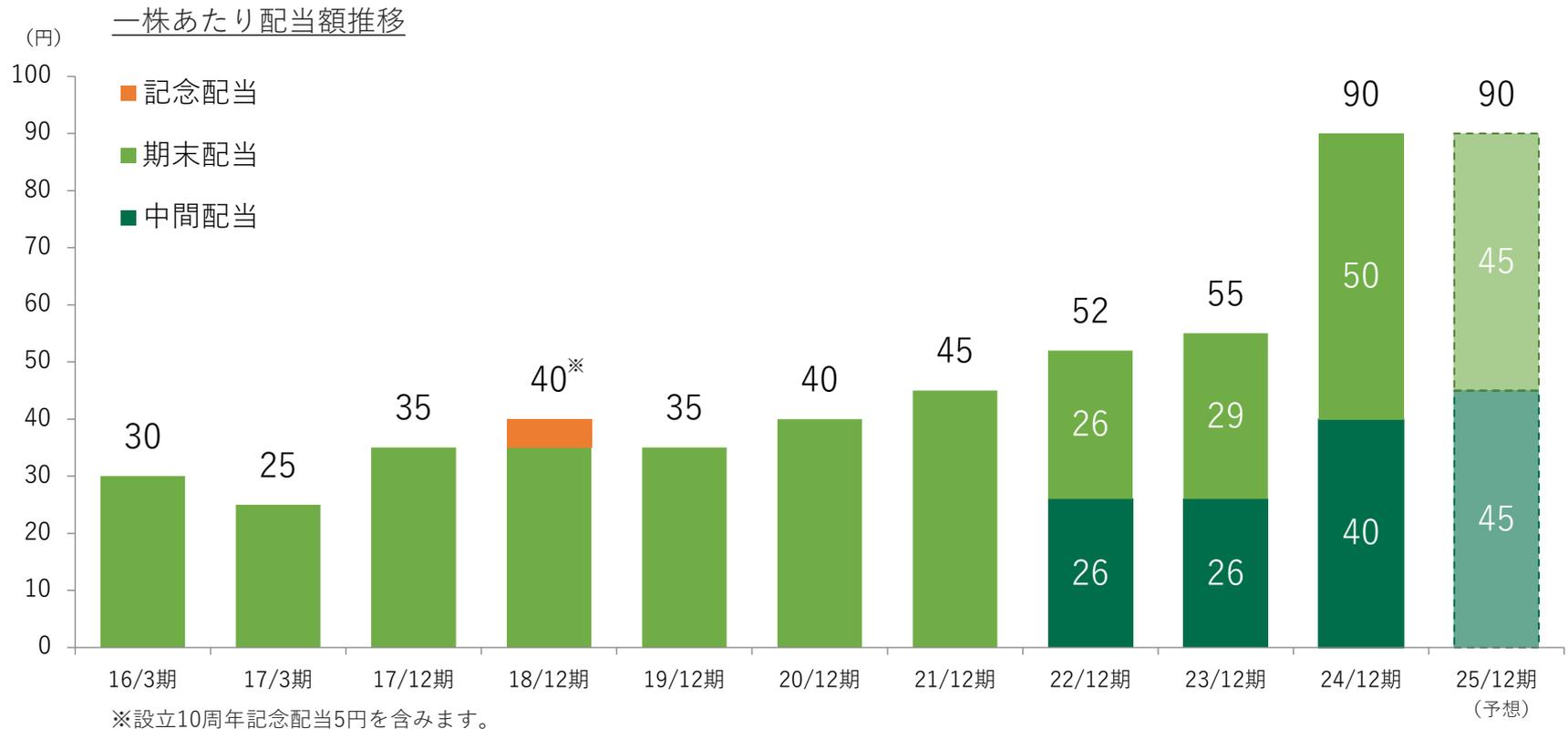
減価償却費



株主還元政策

過去の配当実績に基づき、安定的な配当を継続

- 経営環境や業績および財務状況を勘案するとともに、株式市場の動向も注視して総合的な還元策を検討
- 2024年に引き続き、自己株式取得を実施（2025年3月より上限10億円または40万株を取得）



トピックス①

株式会社アイケイエスとの資本提携

2025年2月、再生可能エネルギーを活用した環境配慮型発電システムや電源供給システムの開発・製品展開を目的に、株式会社アイケイエスと資本提携を実施しました。現在は、人材交流を通じた技術連携や共同研究開発を進めており、今後とも同社を通じた協業先との連携を図るとともに、新たな収益の創出を推進してまいります。

株式会社アイケイエスについて 

会社名	株式会社アイケイエス
所在地	京都府京都市
代表者	代表取締役社長 今井 尊史
資本金	2,000万円
設立年	1995年
事業内容	(1)充放電器の設計・製造・販売 (2)リユースバッテリーの保護回路設計、 バッテリーパックの設計・制作 (3)工場設計、自動化設計、各種システム の設計、コンサルティング

エコーインコーポレイテッドがテレビCMの放映を開始

昨年に引き続き、米国子会社のエコーインコーポレイテッドが、2025年3月より全米でテレビCMの放映を開始しました。

「Yard（芝）」を愛し、手入れに情熱を注ぐYarders（ヤードーズ）に向けて、製品の性能とブランドメッセージを発信しています。

なお、CMはメジャーリーグの試合や、米国のスポーツ専門チャンネルであるESPNにて放映されます。



CMは当社[ホームページ\(2025.04.08\)](#)にてご覧いただけます

トピックス②

人的資本投資への取り組み

➤ 「健康経営優良法人2025（大規模法人部門）」に認定

経済産業省と日本健康会議が共同で実施する「健康経営優良法人2025（大規模法人部門）」に認定されました。

当社は、従業員の健康づくりやメンタルヘルス対策、生活習慣病予防、

女性特有の健康課題への対応など幅広い施策に取り組んでいます。今後も、心身ともに健康で、いきいきと働ける職場づくりを進めてまいります。



➤ 従業員持株会向け株式インセンティブ制度の導入

会社設立15周年の節目を迎え、企業価値の持続的な成長と従業員のエンゲージメント向上および財産形成を支援するため、自己株式を活用した譲渡制限付株式インセンティブ制度を導入しました。

株主の皆様との価値共有を一層深めるとともに、企業価値のさらなる向上に向けて従業員のモチベーションを高めてまいります。

広島事業所にPPAによる太陽光発電設備を導入

カーボンニュートラル実現に向けた取り組みの一環として、広島事業所にPPA※による太陽光発電設備を導入しました。これにより、年間約625トンのCO2排出削減が見込まれます。また、当社は既に米国子会社のエコーインクにおいても太陽光パネルを設置しており、年間約1,300トンを削減しています。今後も他の生産拠点への導入を計画しており、引き続き事業活動における環境負荷低減に努めてまいります。

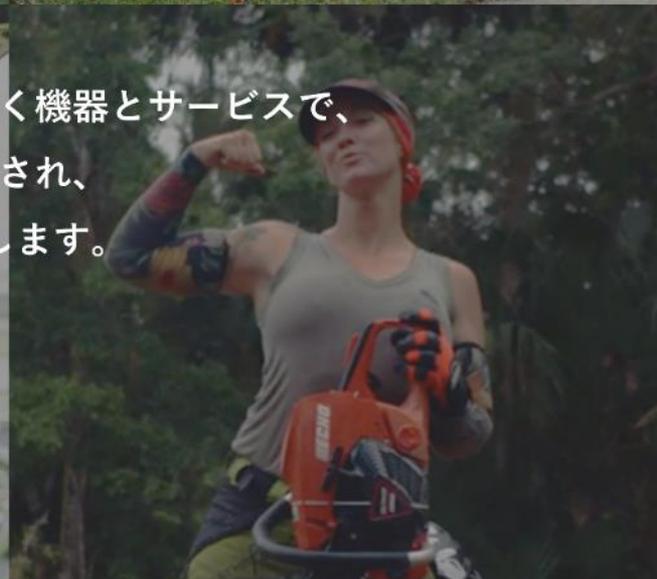
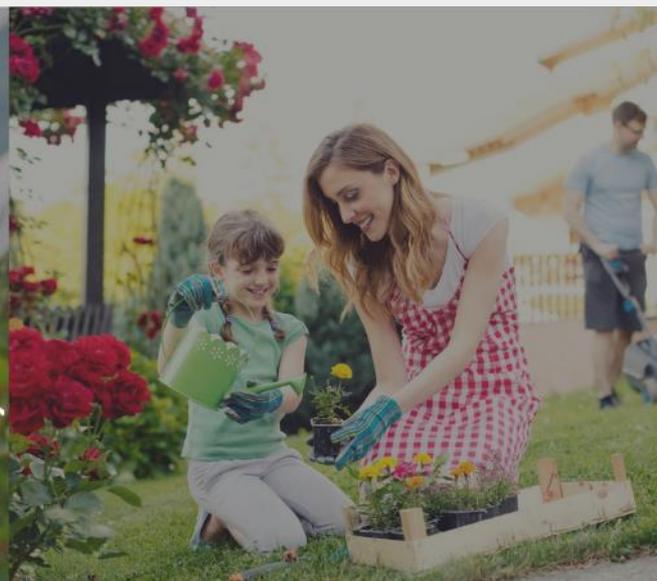
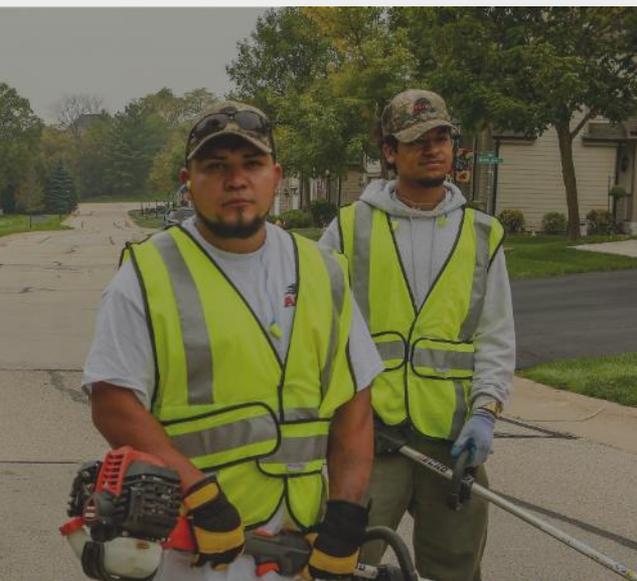
※PPA（Power Purchase Agreement：電力購入契約）

発電事業者(PPA事業者)が需要家の敷地内(屋根等)に太陽光発電設備を設置し、所有・維持管理を行った上で、電力を供給する仕組みです。



広島事業所の建屋屋上へ設置した太陽光パネル

やまびこの存在意義



私たちやまびこグループは、
世界最高レベルの環境技術と安全・安心で革新的な良く働く機器とサービスで、
社会と人々に信頼と感動をもたらし、期待され、
豊かな自然と共生する輝く未来創りに貢献します。

APPENDIX

会社概要

会 社 名	株式会社やまびこ (YAMABIKO CORPORATION)
設 立	2008年12月1日
本 社	東京都青梅市末広町一丁目7番地2
売 上 高	164,838百万円 (2024年12月期連結)
資 本 金	6,000百万円
決 算 期	12月31日
連 結 子 会 社 数	13社※ (国内6社・海外7社/2024年12月末現在)
従 業 員 数	3,070名 (2024年12月末現在/連結)
上 場 市 場	東京証券取引所プライム
証 券 コ ー ド	6250
発 行 済 株 式 総 数	44,108,428株 (2024年12月末現在)
単 元 株 式 数	100株

※持分法適用関連会社1社を除く

やまびこの歩み



世界初となる手持ちブロウに加え、国内初の背負式刈払機やスピードスプレーヤなどを開発

KIORITZ **ECHO**



2000年代の排出ガス規制強化・業界再編を経て、歴史と実績のある2社が合併。経営基盤強化とシナジー効果の発揮により、持続的成長を目指して設立

KIORITZ **shindaiwa** **ECHO**

株式会社 共立

設立 1947年 (昭和22年)

YAMABIKO

株式会社やまびこ

設立 2008年 (平成20年)

新タイワ工業株式会社

設立 1952年 (昭和27年)



電動チェーンソーを経て、世界初となる混合式4サイクルエンジンやマルチ発電出力などを開発

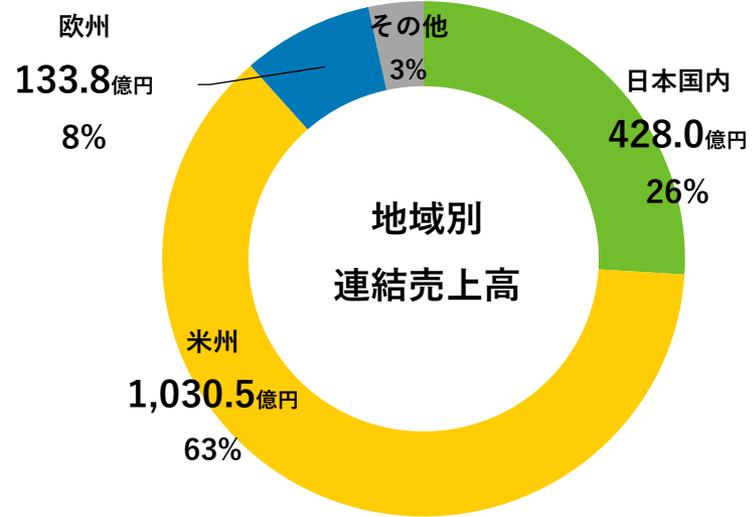
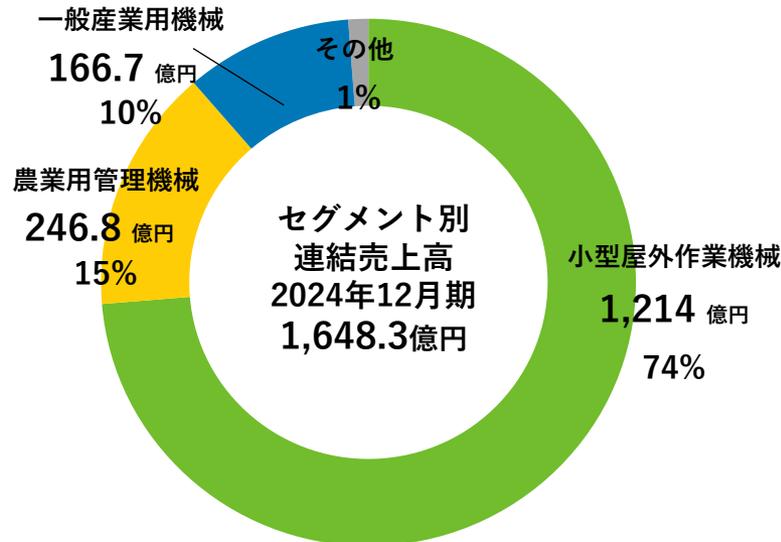
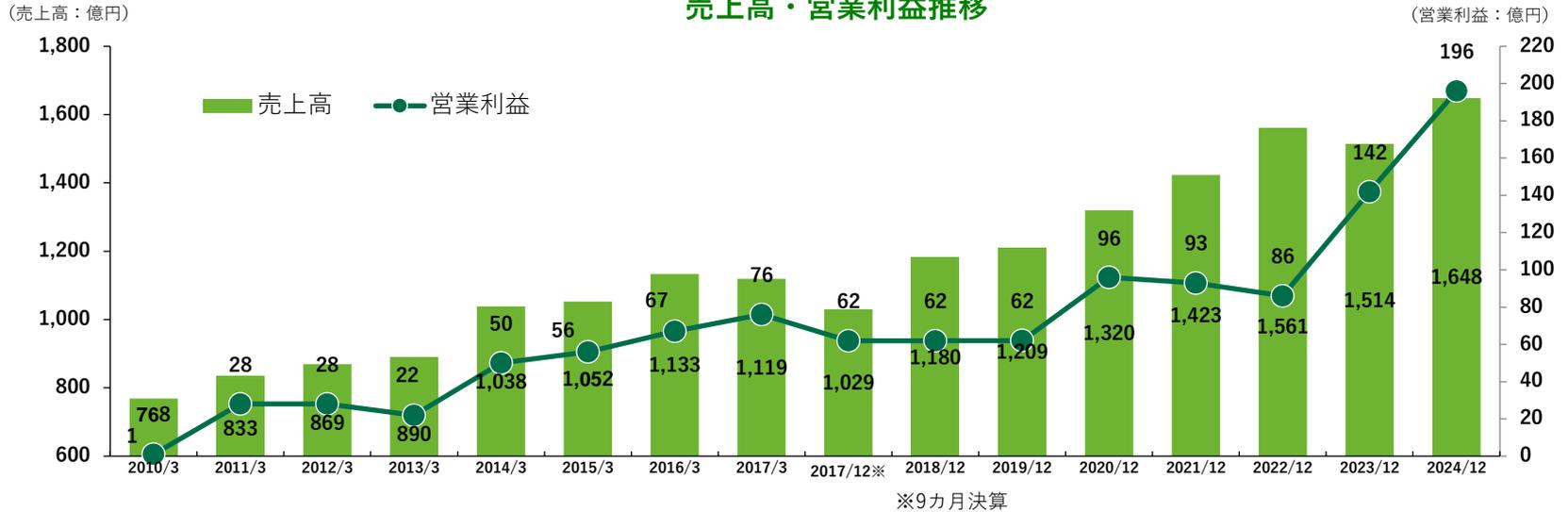
shindaiwa

社名の由来

山の神様である「山彦」を社名に掲げ、自然と環境の育成、整備への貢献を理念に持つ会社姿勢の象徴とする

業績推移と売上構成

売上高・営業利益推移



事業セグメント：小型屋外作業機械（OPE）



売上高構成比

73.7%

（2024年12月期）

国内は農家・林業家の芝刈や伐木用として、海外はOPE※と称され、主に緑地管理を事業とする専門業者が庭や緑地の管理に使用する作業機として販売

海外においては造園業など緑地管理を事業とする専門業者向けのプロユーザー市場と主に自家用で使用する住宅所有者向けの一般ユーザー市場に分類

製品は動力源にエンジンやモーターを搭載した屋外作業機のほか、ロボット芝刈機も含む



市場ニーズを満たす製品開発力

- 動力源を問わず、プロユーザー向けの高い作業効率を持つ製品を開発



出力 × 作業時間 = 仕事量

技術的な強み

高品質・環境規制に適合したエンジン

- 小型・軽量・高出力(手持機械に最適)・低コスト
- 環境対応エンジン認証数、業界トップクラス

環境負荷低減と作業性の両立

- プロサイドに立った出力・制御技術に優れる電動製品
- 化石燃料から代替燃料への適用技術

※Outdoor Power Equipment

事業セグメント：農業用管理機械



売上高構成比

15.0%

(2024年12月期)

国内における防除機械、
北米における
農作物収穫機械の製造販売



技術的な強み

培った防除技術にICTを融合し、 スマート農業に貢献

送風技術・噴霧技術・散布技術

- 水田、畑作、果樹、施設栽培などあらゆる栽培体系において均一散布を実現
- 低騒音・大風量を実現する送風システムを開発
- 農薬飛散を低減させるやまびこノズルの自社開発

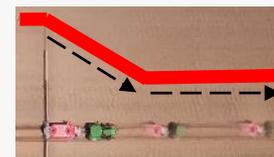


やまびこノズルの噴霧状態（扇形状）
（平均粒子径 110~270 ミクロン）

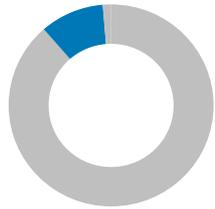


ICT

- 世界標準の通信技術（ISOBUS）を用いて、トラクタと相互通信
- 全球測位衛星システム（GNSS）により圃場内に適正な量の農薬を適正な場所にムダなく散布
- 設定した圃場の形状に合わせて散布エリアを自動制御する世界初の技術



事業セグメント：一般産業用機械



売上高構成比

10.1%

(2024年12月期)

建設工事・防災・減災のほか
資源採掘現場やイベント会場等で用いられる
機械の製造販売



ハイブリッド溶接機

2023年度省エネ大賞受賞

CO₂排出量を約**60%**削減
脱炭素社会へ貢献する革新の溶接機



発電機



投光器

技術的な強み



世界初の三相/単相3線
切替なし同時出力可能
(米国特許・国内特許取得済み)

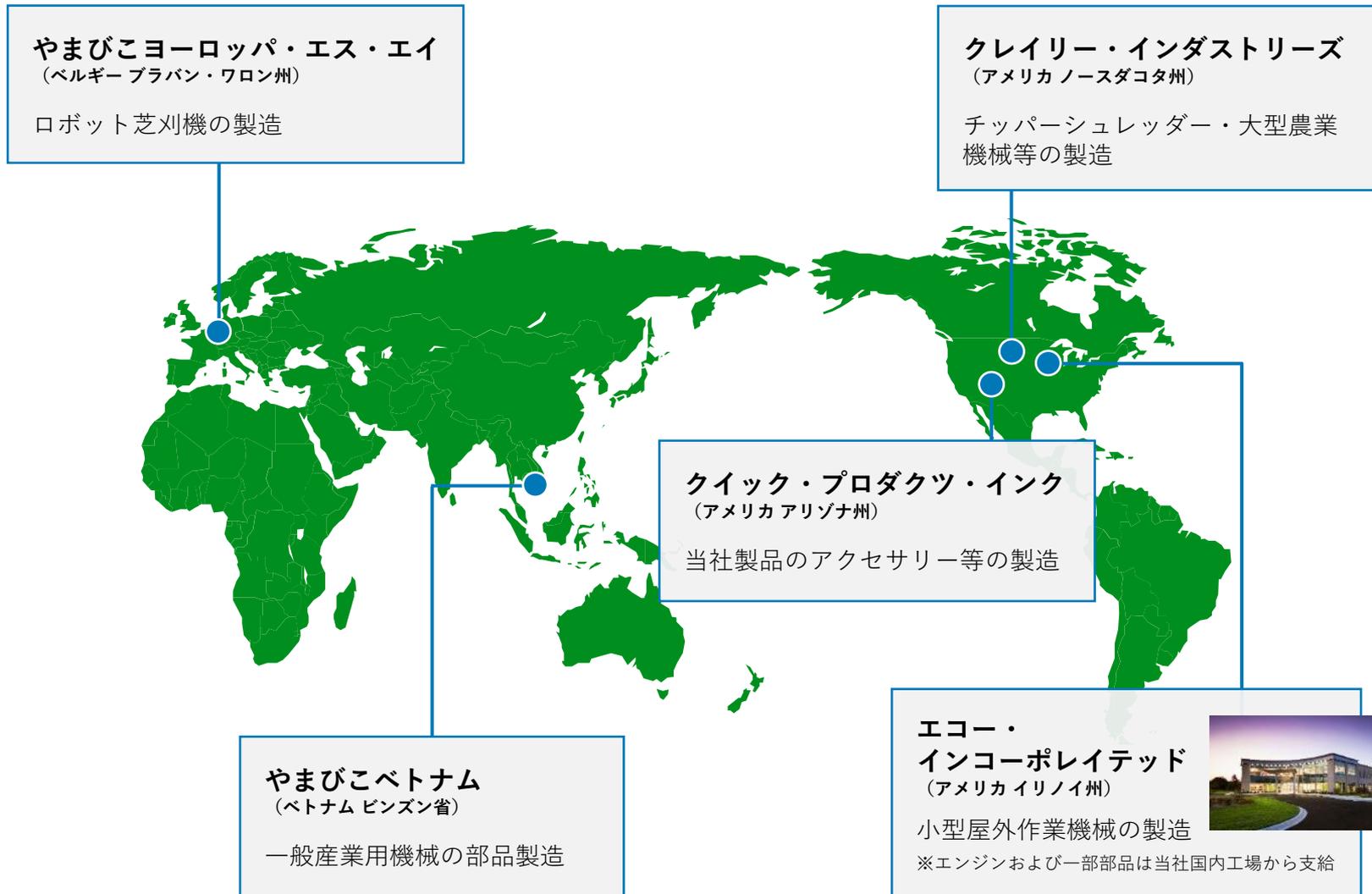


「ダブルECO」
低燃費・騒音排出ガス効果に優れた
2つのエコ機能の開発

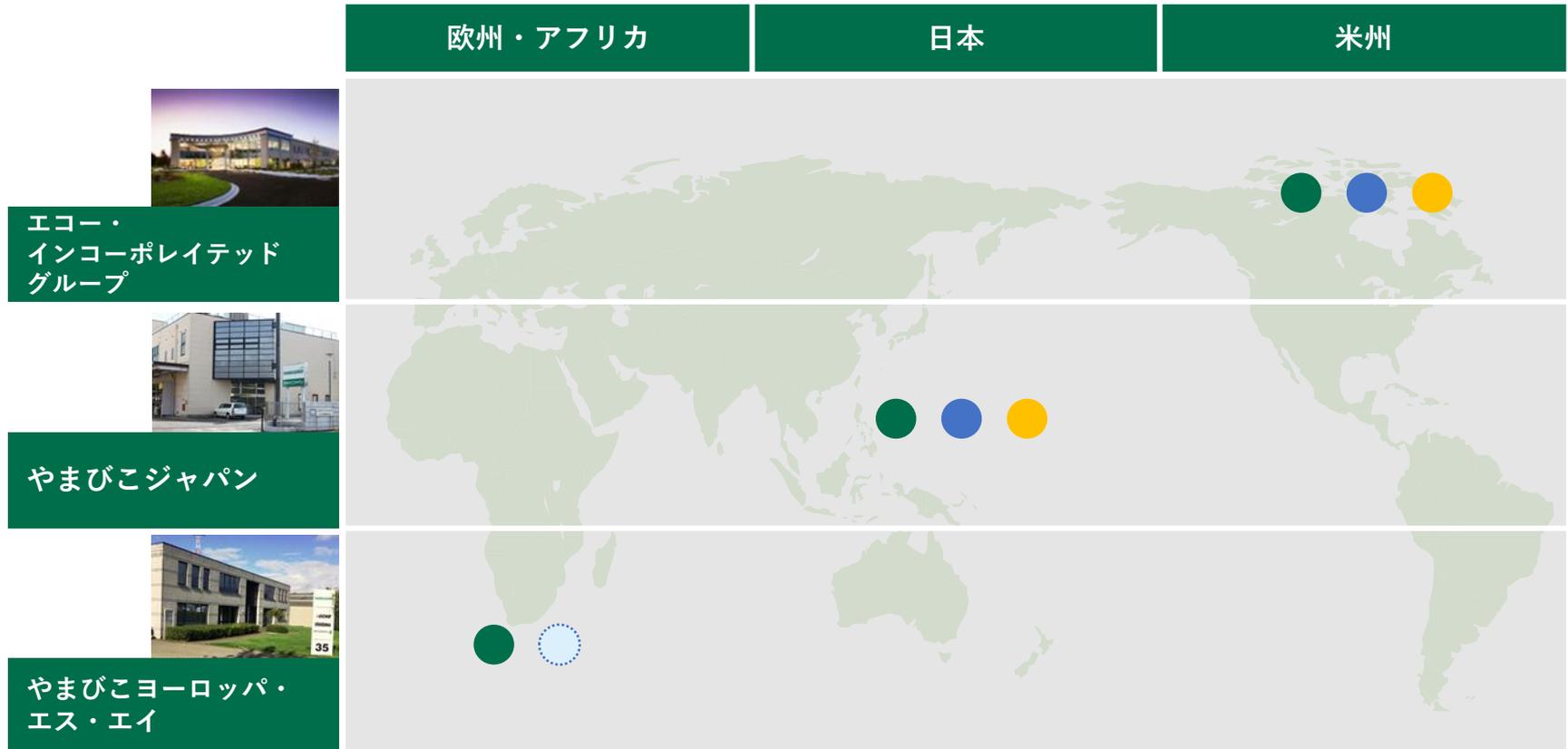
国内生産体制



海外生産体制



販売体制



● 小型屋外作業機械 (Outdoor Power Equipment)
 ● 一般産業機械
 ● 農業用管理機械

※アジア・中東・オセアニア地域にはやまびこ本社から販売

主要販売子会社

やまびこジャパン株式会社

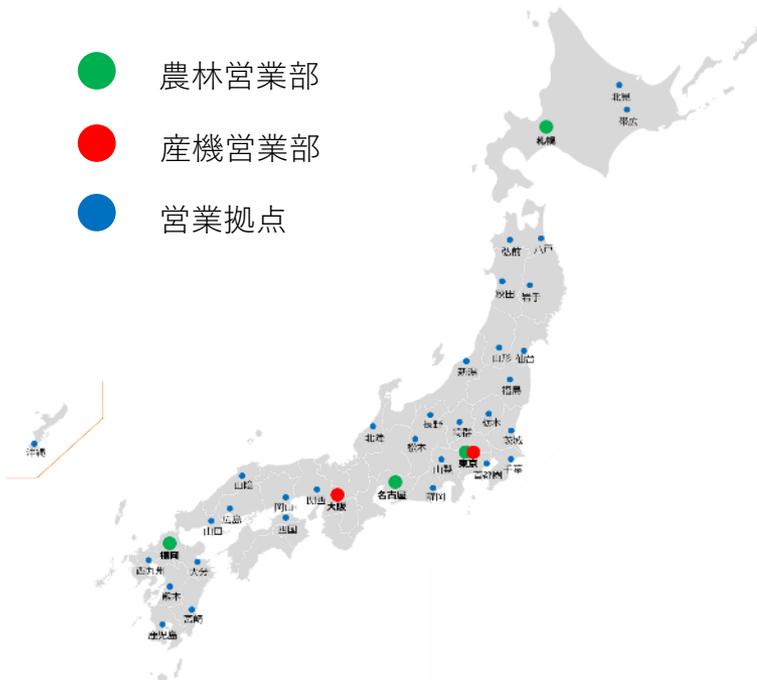
会社名 やまびこジャパン株式会社
 設立 2017年6月
 本社 東京都青梅市
 拠点 6営業部 38拠点

日本市場における販売拠点

多様な販売ルートと充実の営業体制で
 3事業3ブランドの販売を担う

国内販売拠点一覧

- 農林営業部
- 産機営業部
- 営業拠点



充実した営業体制

- 共立・新ダイワ・エコーの3ブランドを販売
- 国内6営業部、38拠点の充実した営業体制
- 全社員の7割が営業・サービスに従事

セールス＝エンジニアとして迅速なサービス提供

- 高い専門性を有する社員がアフターサービスまで一貫して対応
- 農機具販売店やホームセンター、建機レンタル会社などの幅広い販売ルートを通じて多くのお客様に製品を提供

主要販売子会社



会社名 エコー・インコーポレイテッド
 設立 1972年11月
 本社 アメリカ・イリノイ州
 子会社 3社

エコー・インコーポレイテッドグループ

クレイリー・インダストリーズ
(アメリカ ノースダコタ州)
 大型農業機械等の製造・販売

エコーパワーイクイップメント
(カナダ オンタリオ州)
 小型屋外作業機械・農業機械の販売



クイック・プロダクツ・インク
(アメリカ アリゾナ州)
 当社製品のアクセサリー等の製造

エコー・
 インコーポレイテッド
(アメリカ イリノイ州)
 小型屋外作業機械・一般産業用機械の
 製造・販売



米州で50年続くECHOブランド

OPE・産業機械・大型農機用補助機の 製造・販売拠点

やまびこグループ最大の販売会社

- 1972年の設立以来、米州市場で小型屋外作業機械を販売
 グループ売上高の6割を占める（2024年実績）

OPE市場をリードするECHOブランド

- パワーブロウ（1978年）や芝生の溝切機（1990年）など
 世界初となる製品を投入し常に市場をリード
- 「Xシリーズ」をはじめプロユーザーから信頼を集める



世界初のパワーブロウ



プロ向け製品群「Xシリーズ」

主要販売子会社

YAMABIKO EUROPE SA

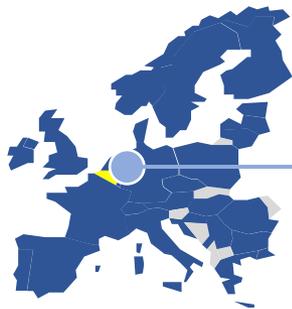
会社名 やまびこヨーロッパ・エス・エイ

設立 2002年3月

本社 ベルギー・ブラバン・ワロン州

欧州地域の販売拠点

欧州・アフリカの34か国に販売



やまびこヨーロッパ・エス・エイ

自動芝刈機の製造・販売
および小型屋外作業機械の販売



欧州地域のOPE販売とロボット開発拠点

2021年に完全子会社化 欧州販売戦略を推進し売上拡大を図る

ベルギーから欧州全域へ展開

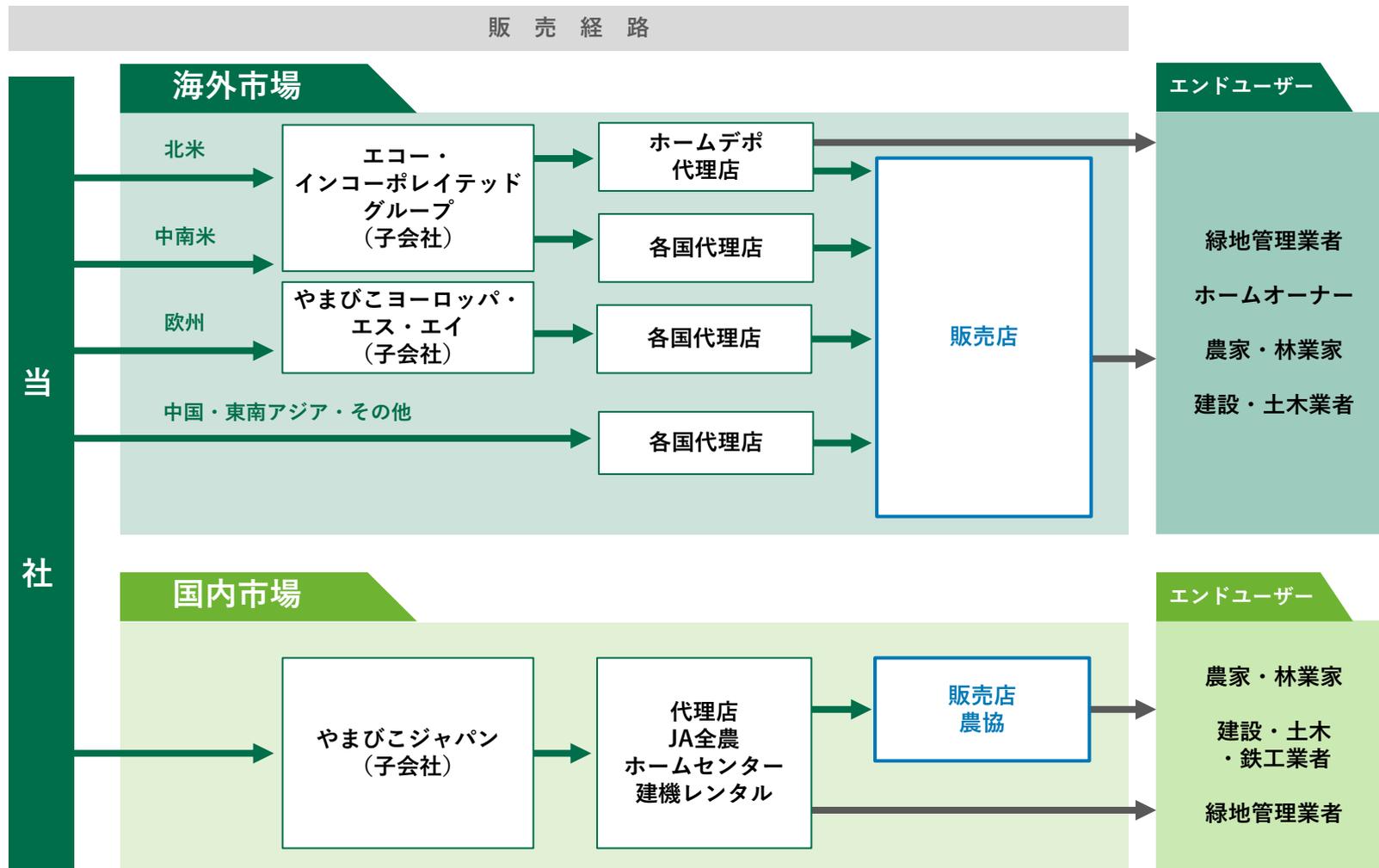
- 欧州・アフリカの34か国でOPE製品を販売
- 統一した販売戦略と代理店・販売店サポートにより更なる売上拡大を図る

お客様の声を取り入れた開発・販売体制

- ロボット芝刈機の普及が進む欧州でマーケットインの開発を行い、業界をリードするロボット芝刈機を開発・販売



主な販売経路



国内エンドユーザー



農家

建設・土木・
鉄工業者



林業家

海外エンドユーザー



緑地管理業者



ホームオーナー



農家・林業家



建設・土木業者

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

お問い合わせ先

株式会社 やまびこ 企画・経理本部 経営企画部

〒198-8760 東京都青梅市末広町1-7-2

e-mail : ir6250@yamabiko-corp.co.jp